

薬剤部からのお知らせ

2023年7月7日

◆採用切り替え薬品

※※2023年7月19日(水)より販売中止のため採用切り替えになります(下記薬品)※※

フェノバルビタール散 10%「マルイシ」	⇒	フェノバル 散10%
----------------------	---	------------

1125、1134〈催眠・鎮静・抗けいれん剤〉		
フェノバル 散10%「劇」 PHENOBAL 【規格】 10%1g <薬価> 7.5円/g・ 第一三共株式会社	フェノバルビター ル	【効能・効果】 ○不眠症 ○不安緊張状態の鎮静 ○てんかんのけいれん発作 強直間代発作(全般けいれん発作、大発作)、焦点発作(ジャクソン型発作を含む) ○自律神経発作、精神運動発作 【用法・用量】 ○不眠症 フェノバルビタールとして、通常成人1回30～200mgを就寝前に経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 ○不安緊張状態の鎮静 ○てんかんのけいれん発作 ○自律神経発作、精神運動発作 フェノバルビタールとして、通常成人1日30～200mgを1～4回に分割経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

グルタチオン注射用200mg「タイヨー」	⇒	グルタチオン注射用200mg「NIG」
----------------------	---	---------------------

3922〈グルタチオン製剤〉		
グルタチオン注射用 200mg「NIG」 GLUTATHIONE 【規格】 200mg1管 <薬価> 57円/管・ 武田薬品工業株式会社	注射用グルタチ オン	【効能・効果】 1.薬物中毒、アセトン血性嘔吐症(自家中毒、周期性嘔吐症) 2.慢性肝疾患における肝機能の改善 3.急性湿疹、慢性湿疹、皮膚炎、じんま疹、リール黒皮症、肝斑、炎症後の色素沈着 4.妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群 5.角膜損傷の治癒促進 6.放射線療法による白血球減少症、放射線宿酔、放射線による口腔粘膜の炎症 【用法・用量】 通常成人には、グルタチオンとして1回100～200mgを溶解液にて溶解し1日1回筋肉内又は静脈内に注射する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

グリベンクラミド錠1.25mg「武田テバ」	⇒	グリベンクラミド錠1.25mg「サワイ」
グリベンクラミド錠2.5mg「武田テバ」	⇒	グリベンクラミド錠2.5mg「サワイ」

3961〈経口血糖降下剤〉		
グリベンクラミド錠1.25mg 「サワイ」 劇 GLIBENCLAMIDE 【規格】 1.25mg1錠 <薬価> 5.7円/錠 グリベンクラミド錠2.5mg 「サワイ」 劇 GLIBENCLAMIDE 【規格】 2.5mg1錠 <薬価> 5.7円/錠 沢井製薬株式会社	グリベンクラミド 錠	【効能・効果】 インスリン非依存型糖尿病(ただし、食事療法・運動療法のみで十分な効果が得られない場合に限る。) 【用法・用量】 通常、1日量グリベンクラミドとして1.25mg～2.5mgを経口投与し、必要に応じ適宜増量して維持量を決定する。ただし、1日最高投与量は10mgとする。 投与方法は、原則として1回投与の場合は朝食前又は後、2回投与の場合は朝夕それぞれ食前又は後に経口投与する。

◆採用切り替え薬品

※※2023年7月19日(水)より採用切り替えになります(下記薬品)※※

セファゾリンナトリウム注射用1g「日医工」	⇒	セファゾリンNa注射用1g「NP」
-----------------------	---	-------------------

6132〈合成セファロスポリン系抗生物質製剤〉

セファゾリンNa注射用1g「NP」 CEFAZOLIN 【規格】 1g1瓶 〈薬価〉 291円/瓶・ ニプロ株式会社	注射用セファゾリンナトリウム	【効能・効果】 〈適応菌種〉 セファゾリンに感性的のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、大腸菌、肺炎桿菌、プロテウス・ミラビリス、プロピデンシア属 〈適応症〉 敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髓炎、関節炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、腹膜炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、眼内炎(全眼球炎を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎 【用法・用量】 セファゾリンとして、通常、1日量成人には1g(力価)、小児には体重kg当り20～40mg(力価)を2回に分けて緩徐に静脈内へ注射するが、筋肉内へ注射することもできる。 症状及び感染菌の感受性から効果不十分と判断される場合には、1日量成人1.5～3g(力価)を、小児には体重kg当り50mg(力価)を3回に分割投与する。 症状が特に重篤な場合には、1日量成人5g(力価)、小児には体重kg当り100mg(力価)までを分割投与することができる。 また、輸液に加え、静脈内に点滴注入することもできる。
--	----------------	--

◆オーダー一時中止薬品

※※2023年7月19日(水)よりオーダー一時中止になります(下記薬品)※※

アンプリット錠10mg